



# 野口英世アフリカ賞ニュースレター

Hideyo Noguchi Africa Prize

Prix Hideyo Noguchi pour l'Afrique

第2号 平成21年3月

## 第一回野口英世アフリカ賞受賞者記念講演会の開催

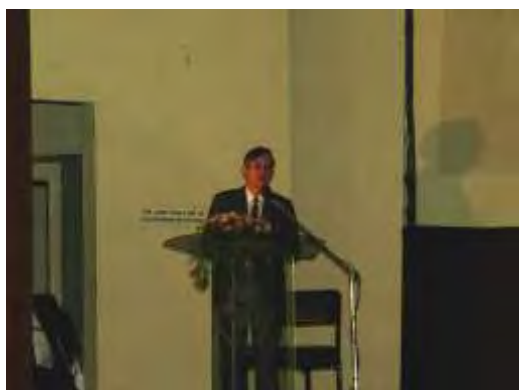
2008年11月28日、ナイロビ大学（ケニア）で、第一回野口英世アフリカ賞を受賞したミリアム・ウェレ博士、ブライアン・グリーンウッド博士による記念講演会が開催されました。この講演会は、在ケニア日本大使館、JICAケニア事務所、長崎大学ナイロビ研究所、日本学術振興会ナイロビ研究連絡センター、ナイロビ大学が共同で開催したもので、アフリカの医学の進歩、保健の増進のためには、科学研究と医療保健活動の双方が重要であることを、ケニア一般国民、特に若者（高校生、大学生、若手研究者）に伝えることを目的としたものです。

講演会の開始前には、野口英世博士の生涯を描いた映画「遠き落日」が上映されました。

講演会では、岩谷滋雄駐ケニア日本大使やアリ・アブディ・モハメッド・ケニア特別企画省事務次官によるオープニングスピーチに続いて、グリーンウッド博士、ウェレ博士が、それぞれ質疑応答を含め1時間ずつ講演を行いました。

ナイロビ大学、ケニヤッタ大学の学生のほか、医療関係のNGOで活躍する職員たちなどを中心に多くの人々が参加し、聴衆が500人を超えるほどの盛況となりました。

また、講演会前日には、在ケニア日本大使館で、両受賞者、ケニア保健・衛生分野の政府要人、国際機関関係者などを招いた夕食会が開催されました。夕食会では、JICAケニア事務所が制作した、野口英世博士の生涯を子供達に紹介するための紙芝居が披露されました。



グリーンウッド博士の講演概要

- ・アフリカの保健は、高い乳幼児・妊婦死亡率、下痢、マラリア、肺炎など、課題は多い。一方、ワクチン接種の普及に伴う死亡率の低下など、肯定的な点も見られる。
- ・保健は、教育、経済、開発等と無関係ではなく、これらは互いに関連している。
- ・マラリア、エイズ対策などには多額の資金が割り当てられているが、研究に対する資金協力は依然として不足。より多くの研究基金が必要。



ウェレ博士の講演概要

- ・日本がアフリカを対象にし、特に現場での医療活動を評価する賞を設立したことに感謝。
- ・アフリカの保健状況は、依然として深刻。しかし、基礎知識の不足が問題なのではない。
- ・原因の一つは保健のための資金・人材が都市に集中していること。また、地域住民が軽視されていることも問題。
- ・個人を保護し、能力を強化する「人間の安全保障」の考え方が保健分野でも有効。

## 第1回受賞者のその後の活動

### ★ ミリアム ウェレ博士 ★

#### 保健システム強化に向けたグローバル・アクションに関する国際会議

11月3—4日、「G8北海道洞爺湖サミット・フォローアップ：保健システム強化に向けたグローバル・アクションに関する国際会議」が東京で開催されました。ウェレ博士は、この会議のために訪日され、2日目の第5セッション「保健システム強化に向けた統合的アプローチ：人間の安全保障を強化する新たな国際保健セクターのあり方を探る」にコメンテーターとして出席しました。

このセッションでは、国際、国、コミュニティの各レベルにおける取り組みを効果的に連携させること、コミュニティ住民を保健システム強化の基本単位とすることについて、概ね合意が得られました。

この会議の概要は、以下のウェブサイトでご覧いただくことが出来ます。

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/bunya/health/index.html>

ウェレ博士は、会議出席のほか、日本側の野口英世アフリカ賞関係者と昼食を共にしながら意見を交換しました。ウェレ博士からは、野口英世アフリカ賞や野口英世の功績をアフリカで更に広めるため、また、アフリカの保健・衛生状態を更に向上させるため、今後も日本政府と協力して取り組んでいきたいとの力強いお言葉を頂きました。

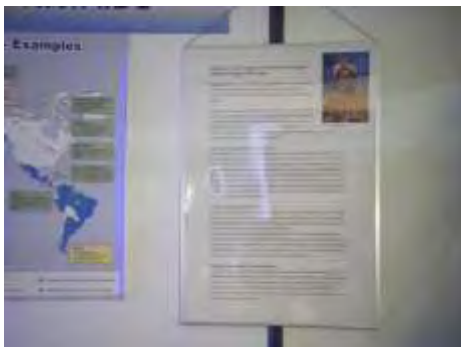
ウェレ博士は、野口英世アフリカ賞の賞金として贈られた1億円を原資として、ケニアの村への公衆トイレの設置など、地域に根ざした保健システム強化プロジェクトを実施していきたいと意欲を見せておられます。日本は、2008年の第4回アフリカ開発会議（TICADIV）で、今後5年間の目標として、保健システムの強化、中でも保健医療従事者の育成や保健インフラ整備を打ち出しており、ウェレ博士のプロジェクトはこの目標とも合致しています。今後のプロジェクトの進展が期待されます。



講演するウェレ博士

#### 第15回エイズ・性感染症国際会議

12月3日から7日にかけて、セネガルの首都ダカールで「第15回エイズ・性感染症国際会議（通称：アフリカ・エイズ会議）」が開催され、ウェレ博士も出席されました。会議場では、広報ブースを設置し、このブース内で、野口英世アフリカ賞の



野口英世アフリカ賞についての  
パネル展示

DVD上映、パネル展示、パンフレット配布等の広報活動を行いました。ウェレ博士は、広報ブースを訪れて広報活動の様子を視察されました。また、ウェレ博士は、5日に行われたJICA主催の衛星テレビを通じたシンポジウムにケイタ・セネガル青年・若年雇用大臣とともに出席しました。



広報ブースを訪れたウェレ博士と  
青年海外協力隊員

## 保健研究に関する世界閣僚級会議



全体会議の様子

2008年11月17～19日の3日間、マリの首都バマコで「保健研究に関する世界閣僚級会議」が開催されました。初日の全体会議では、WHO アフリカ地域 (AFRO) の事務局長がアフリカでの保健研究について報告しました。その時、事務局長は、「アフリカの保健研究推進に日本は非常に大きな貢献をしている」として、野口英世アフリカ賞に言及し、更に、会場の最前列にいたウェレ博士を「野口英世アフリカ賞の第一回受賞者」として紹介しました。ウェレ博士もこれに応え、立ち上がって満員の聴衆に手を振り、大きな拍手を浴びました。

さらに、ウェレ博士は特別講演を行い、野口英世アフリカ賞受賞の理由となった博士自身の業績を紹介して、地域住民参加に基づく保健システム強化の重要性を訴えました。

また、野口英世アフリカ賞の医療活動部門選考委員であるアブサトウ・ンジャイ博士が部長を務めるマリ国立公衆衛生研究所が会議場に展示ブースを設置しており、このブースで野口英世アフリカ賞のパンフレットを参加者に広く配布しました。参加者からは、「野口英世アフリカ賞の名前は知っている。日本は良い取り組みを始めたと思う」などの感想が聞かれました。

日本からは、前厚生労働副大臣の武見敬三氏が招待演者として招かれ、やはり初日の全体会議で、「国際保健とG8ー保健システム研究への関与」の題で講演し、参加者から大きな反響を得ました。



シディベ・マリ首相と会談する  
武見敬三氏

### ★ ブライアン・グリーンウッド博士 ★

平成20年12月15、16日、北海道大学学術交流会館(札幌市)にて「新興・再興感染症に関するアジア・アフリカリサーチフォーラム」が開催され、15日には第一回野口英世アフリカ賞受賞者グリーンウッド博士に「The Gates Malaria Partnership- An experiment in research capacity development in Africa」という演題で特別講演をしていただきました。博士は1998年ロンドン衛生熱帯医学校にマラリアセンターを設立し、ビル&メリンダゲイツ財団の資金により10年にわたりマラリア対策と研究、人材育成に取り組んでこられました。約50分という短い時間の講演でしたが、内容は非常にインパクトが強く、30名以上の博士号取得者を輩出し、アフリカ4カ国にトレーニングセンターを設立するなど、博士の推進されている事業がアフリカでの人材育成に大きな貢献をしていることに驚かされました。その一方で色々な場面での苦勞の断片を垣間見ることが出来ました。

このフォーラムは文科省「新興・再興感染症研究拠点形成プログラム」の成果報告会として毎年開催しているもので、今回は北海道内の医療関係者を含む多くの方にご来場いただき、定員を超える参加者に恵まれました。来場者アンケートでは特別講演が面白かったとの回答を多くいただきました。博士も「科学的に非常にレベルが高く、面白い会議でした」との感想を下さいました。

グリーンウッド博士は、野口英世アフリカ賞の賞金1億円を原資に、アフリカの若い研究者を英国や日本の大学に留学させるための奨学金を創設する計画を進めておられます。今後も、アフリカ人研究者の育成に益々貢献していかれることが期待されます。



講演するグリーンウッド博士



黒川清 野口英世アフリカ賞委員会委員長が、国際医学雑誌「保健研究に関するグローバル・フォーラム・アップデート第5号」に、野口英世アフリカ賞についての英文記事を寄稿しました。



黒川委員長  
(撮影：佐久間哲男)

#### <記事概要>

本賞は、2006年の小泉総理（当時）のアフリカ訪問の途上、彼の突然のひらめきから始まった。当時、既に国際的な医学賞は多数存在したが、熱帯医学、公衆衛生、また所謂トランスレーショナル・リサーチ（基礎研究から応用分野に及ぶ研究）の分野を評価する賞は存在しなかった。

この賞の設立の契機となった野口英世は、非白人への偏見や身体的ハンディキャップをものともせず、黄熱病研究のためアフリカへ渡航した。野口の勇気、情熱、フィールド調査への信念が、彼の偉大な貢献を可能にした。そして、この信念こそ、野口と本賞をつなげる理念なのである。

本賞の創設に当たって、第一の課題は、多様性と包括性を確保することだった。このため、アフリカを含む全世界から候補者を求め、選考委員会の委員も国際的な顔ぶれを選んだ。第二の課題は、選考の過程で、公平さと学術的厳格さを確保することであり、医学研究・医療活動分野それぞれに選考委員会を設け、専門家レベルでの選考を行った。第三の課題は、保健・医療の現実に即した賞にすることであり、また、奨学金の半分を一般からの募金により賄うことで、アフリカと日本人々・社会との「つながり」も確保された。

本賞の第一の目的は、アフリカに関係する保健・医療問題についての研究を強力に促進することである。また、本賞は、疾病を取り巻く人的環境、自然環境、社会的側面など、より大きな視点を重要視している。

グリーンウッド博士は、マラリアに関する大胆で創造的な業績、特に殺虫処理した蚊帳の有効性、アーテミスニン誘導体との併用によるマラリア治療の基礎研究、マラリアワクチン研究への貢献などにより受賞した。ウェレ博士は、地域レベルの医療サービス向上に長年尽力され、子供のワクチン摂取率の大幅な改善、HIV/AIDS患者や社会的弱者への取り組みが評価された。また、両受賞者の業績には、ご家族の支援と理解が不可欠であった。

この賞は、アフリカ全体において医学研究や医療活動の多様なあり方を先導するユニークな試みで、最終的には、国際社会がアフリカの医療・保健問題に対処する方法を変革するものとなり得る。アフリカの保健に関する研究は、アフリカの人々の手で行われて、真に意義深く、持続可能なものになるのである。

※この記事の原文は、以下のウェブサイトでご覧いただくことができます。

[http://www.globalforumhealth.org/Site/002\\_What%20we%20do/005\\_Publications/002\\_Global%20Forum%](http://www.globalforumhealth.org/Site/002_What%20we%20do/005_Publications/002_Global%20Forum%20)

野口英世アフリカ賞基金への寄附実績（2009年1月末日現在）

413,327,972円 【個人：1,774件、法人：309件（計2,083件）】

これまでご寄附をお寄せいただいた方々に厚く御礼申し上げます。

#### ◆今後の予定◆

2010年2月に、本賞の第一回記念シンポジウムをガーナで開催することを計画しています。シンポジウムには、ウェレ博士、グリーンウッド博士にもご出席いただく予定です。野口英世博士が亡くなり、小泉元総理が本賞の設立を決意したガーナでシンポジウムを開催することにより、改めて本賞の理念、医学研究と医療活動の意義などについて、多くの方、特にアフリカの人々に知っていただきたいと考えております。

発行：内閣府大臣官房国際課野口英世アフリカ賞担当室

〒100-0014 千代田区永田町1-11-39 永田町合同庁舎

電話：03-5501-1745

FAX：03-3502-6255